

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人三重大学

1 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めることとしている。第1期及び第2期中期目標期間中の産学官連携事業における「地域のイノベーションを推進できる人財の育成」の成果を踏まえ、第3期中期目標期間においては、社会に積極的に貢献できる人材を育成するとともに、人文社会系（人文・教育）、自然科学系（医学・工学・生物）それぞれを核とした分野におけるイノベーションを推進し、地域の活性化・創生を目指すこと等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、個々の教員による地域貢献活動を対象とする独自の支援事業として「地域貢献活動支援事業」を行い、地域連携参画教員の拡大や地域貢献活動の持続性を高めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 海外渡航学生の増加に向けた取組として、平成30年度前期（第8期）と後期（第9期）の「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（大学全国コース）」に応募するとともに、応募者に対して、「トビタテ！」経験者や留学生委員会委員による各種指導を実施しているほか、日本学生支援機構の短期留学支援奨学金制度（協定派遣・協定受入）に申請を行い、学生への経済的支援を強化している。また、海外からの留学生の受入増加に向けた取組として、優秀な留学生（特に博士後期課程学生）の入学を促進するため、入学料及び授業料を標準修業年限の間全額免除する「三重大学私費外国人特待留学生制度」（Mie University Honor Student Scholarship for Privately Financed International Students）を新設している。これらの取組により、海外渡航学生数は425名で入学定員の23.8%（目標値：20%）を達成するとともに、受入留学生数は298名で第2期平均よりも12.8%増加（目標値：10%増加）を達成している。（ユニット「海外渡航学生数の増加」に関する取組）
- 平成30年度「学長裁量による若手教員の増員措置」を実施し、研究分野の多様性に配慮した5名の若手教員を採用しているほか、文部科学省「平成28年度国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）」を活用して採用した7名の若手教員を承継内へ移行している。これらの取組により、承継内の若手教員比率が16.7%となり、中期計画の数値目標である16.5%を達成している。（ユニット「優れた若手教員の採用拡大」）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載26事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成29年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

- ソフトウェアロボット (RPA : Robotic Process Automation) の導入による業務効率化
効率的な事務業務の遂行に向けて、消耗品購入情報の会計システムへの入力業務、「WEB貸金システム」への従事者の作業内容及び住所等の内容の入力業務にPC業務自動化ソフトウェアロボットであるRPA (Robotic Process Automation) を適用し、適用前と比較して年間約180時間の業務時間を削減している。
- 柔軟な進路選択を可能とする工学部の再編

工学部において、専門分野の深い知識と同時に工学共通の幅広い知識・情報関連技術を有する人材の育成を目的として、平成31年4月より6学科を1学科(総合工学科)に再編している。この再編により、5つの専門分野ごとのコース制を基盤としつつ、2年進級時に専門分野のコースを決定する「総合工学コース」を設けるとともに、全てのコースにおいて1年次から工学共通基礎教育としてコア科目を履修し、工学共通の幅広い知識を身につけることとしている。これに加え、再編と併せて5つの専門分野ごとに設定した学部・修士一貫コースにおいては、4年次からの3年間で複合的な工学分野の研究活動を可能とし、3年終了時に「卒業研究」か「長期インターンシップ」(地域企業と

連携した海外インターンシップを含む) のいずれかの科目を選択可能とするなど、柔軟な進路選択を可能としている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 多様な財源を活用した整備

「三重大学省エネ積立金制度」により、学内から拠出した資金及び他省庁の補助金等、多様な財源を活用した整備を行い、ESCO事業の効果的な実施や老朽設備を計画的に省エネ設備へ改修する仕組みを構築している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 学修支援体制の強化

学生の主体的な学修態度や行動の形成に向けた学修支援環境を整備するため、環境・情報科学館（MEIPL館）に、「MEIPLサポートデスク」を新設している。サポートデスクに大学生活でのICT関係の相談を受け付ける「ICTサポートデスク」と、参考引用文献の書き方から地域資料の収集・活用方法等まで、学びに関するあらゆる相談に応じる「ラーニングサポートデスク」を設けることにより、学生の相談内容に応じて計10名の大学院生をスタッフとして配置し、人的学習支援を行っているほか、三重県について理解を深める授業科目において、地域情報の利用方法に関する講義と演習を実施している。これらの活動により、新設したサポートデスクへの相談件数は320件となっており、学部生から大学院生に至るまで、幅広く活用されている。

○ 教員の地域貢献活動の組織的支援

個々の教員による地域貢献活動を対象とする独自の支援事業として「地域貢献活動支援事業」を行い、平成30年度の採択数は41件、参画する教員は72名となっている。この支援事業の強化により、自治体で実施するプロジェクト数は、131件となり、地域連携参画教員の拡大が図られ、地域貢献活動の持続性を高めている。

○ 地域拠点サテライトを活用した取組

産業集積地である三重県北勢地域の新たな地域連携基盤として、平成30年度に「北勢サテライト知的イノベーション研究センター」を設置し、地域創生に資するイノベーションの創出を目指して「SDGs研究会」「健康福祉システム開発研究会」を実施するなど、産学官連携のプラットフォームとしての機能を発揮している。北勢サテライトの設置により、県内4地域の地域連携基盤となるサテライト（地域拠点）の設置を完了している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ Mie-LIP DBの研究利活用体制の整備

三重県が進める「三重ライフイノベーション総合特区」と連携して、県下の複数の中核病院の医療情報を集約した「地域圏統合型医療情報データベース」（「Mie-LIP DB」）とデータセンターの構築を進め、9つのデータ集積病院から約40万名分の医療情報を獲得し、匿名化データベースを用いた調査研究に利用する体制を整備している。

（診療面）

○ 地域医療連携体制の強化

三重県内の医療機能の向上、地域の医療機関（津市内）との連携を円滑に行うため、医療連携登録証を交付する等、102の医療機関と「医療連携協定」を締結している。

(運営面)**○ 「三重大学医学部附属病院監事監査マニュアル」の策定**

これまでの重点的なモニタリングや「附属病院監査研究会」で蓄積した情報を基に、大学独自の「三重大学医学部附属病院監事監査マニュアル」を作成し、学内の利用だけでなく、附属病院監査研究会に参加している各大学の監事と共有するなど、国立大学附属病院の監査手法の共有及び質の向上に寄与している。

○ 男女共同参画に関する取組

平成30年4月から働き方改革担当副院長を新たに設置し、医師の労働時間短縮に向けた試みや女性職員の活躍推進のための指針の策定、子育て医療従事者支援相談員の設置等に取り組んでおり、その結果、三重県の実施する「平成30年度女性が働きやすい医療機関認証制度」において、「女性が働きやすい医療機関」として認証を受けている。